



日本紀の清房集





初学ノ人此日本紀御局考ヲ見ルニハ先ツ帝王ノ御次第ト国史  
 ノ次第トヲ心得オクヘキナリ日本書紀續日本紀日本後紀續日  
 本後紀文德天皇實錄三代實錄コレヲ六國史ト云テ皇朝ノ正史  
 ナリ桓武天皇此御代ノ事ハ續日本紀ノ末平城天皇此御代ノ  
 後紀ニ嵯峨天皇此御代ノ事ハ續日本紀ノ末淳和天皇此御代ノ事ハ續日本  
 見テリ仁明天皇嵯峨天皇ノ御代ニ見エタリ文德天皇此御代ノ事ハ續日本  
 皇實錄ニ清和天皇此御代ノ事ハ續日本紀ノ末陽成天皇此御代ノ事ハ續日本  
 見エタリ上ニ宇多天皇此御代ノ事ハ續日本紀ノ末醍醐天皇延喜ノ帝ト朱雀天皇村上  
 天皇冷泉天皇上ノタタリニ記シタルゾ國史ノ次第帝王ノ御次  
 第十リケル

文化十年四月



日本紀御局考序



安原氏藏書

物之多り書とるふふの  
たうり源白紙と書語  
多うりたうり  
めしあうあう  
うりうりうり

しつとてかゝりて  
ひまゝにゆるがぬのまじりて  
らぞやと書きまゝに  
いふおぼえの色と色り  
日本紀の流石とそはま  
人衆よひて

あつたぬらと  
ひまゝにゆるがぬのまじりて  
らぞやと書きまゝに  
いふおぼえの色と色り  
日本紀の流石とそはま  
人衆よひて

はか〜〜〜  
語は〜〜〜  
〜〜〜  
〜〜〜  
〜〜〜  
〜〜〜  
〜〜〜

の〜  
山乃〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜

美狭路乃心流の里人

石田之類

日本紀乃御房考

紫式部を日本紀の御房といひし事いそやくみば  
くめ日記をかきしうむらうといふありきと云りその  
あはれよしの教やうらめしく源氏の物語を人よこ  
すべくしきくたすひて世人に日本紀をいもふふ  
るべくれまよとよえはるべしとの言ひなきをうた  
への人きくして日本紀の御房といはるるういひり  
こい書紀日本書紀といふ  
あやこるたすの中よりとりついで物語り  
かたしとの言を一糸院れふとどれきありたふひ

冷泉院  
平城天皇  
御紀

こころのいすひーやうんと世の人いよもるげよ  
ふたれどこのまのざうりに書紀の中よりとて出て  
かぶらりとかわゆるういをさうーやう治のハ  
宮ハ菟道稚子のきみよとていれれどこの世よま  
こしたるるまよとていれ紀をえぬ人よもかくべに  
かよのひとるれいここの御車とめてとてある  
づーかかたまふづーやとかのれつりーやひめ  
くすよ源氏君とて嵯峨天皇かちすうへてか  
きたるものともかひいさうにくりて桐壺のまど

とバ桓武天皇よ朱雀院のみうどとバ平城天皇よ  
冷泉院のみうどとバ明天皇よなすうたり一  
条院のここののをとていれいれいれいれ  
い日本後紀續日本後紀とていれいれいれ  
のいすふべとていれいれ日本紀といれいれいれ  
さういれいれいれいれいれいれいれいれ  
の名いれいれいれ日本紀いれいれ書紀いれ  
後紀 續日本後紀をよ  
あといれいれ までの四ふいれいれいれ  
むりい國史のこを日本紀といれいれいれいれ

さざりていよまねるるれがさづじさくしてさえ  
何べーとものいふばかりさう源氏君を褒め  
天皇よなごりみだしのちやうく世々のこの一を  
人らよかよひしれごうくさるる高尙が考  
てごうくいひ出たるり桐壺巻よこまごを  
宮のちよめさんといや多れみまごの侍まめは  
いばいひ又ばさあけくれゆらんぞ長恨哥の侍  
繪亭子院のかをたすひくまごのまがや多の帝ハ  
その時のみまごよていまりアはねうるるよ朱雀院と

申ハ承平れみまごの侍まてその阿ひびよ延喜帝  
より外よこがどいまりアは桐壺の帝ハ延喜れみ  
まごよかよひしれごうくさるる高尙が考  
まご此物終ハ寛平のちやうくそれの侍代のこ  
とまごなりとむしり人のかよひはあはれまご  
まわりちれどまごといはよあさるる巻よふまごの  
まごのくを源氏君れたまごのまごにかすたまご  
まごその人のくまごのあはれまごふいひまご  
まごれまごみまごまごよつけしけ世の外れまご





丁へくいつとく似つたものさうぞうは後醍醐天皇も  
源氏君も世のつづきひとあつたことばかりとまひぬみ  
ころをくくつりこゝの國史とあつたがうらとをアツクし  
るべし桐葉巻よら母のねやとあつて帝王のかたふ  
きくくお小のびるべき相かちし戸はとくくも天皇  
よかきしへるあつたころをふめやうたうり後  
醍醐天皇は太上天皇の尊号とえさつて五十七と  
つふゆりしは後醍醐の位よつたかたにせつた戸はし  
續後紀よつていふ源氏君と藤裏葉巻小

太上天皇にかきしつる位えさつてみふくつり  
つうかきしつるをいふたまたまふとみふくみえく  
寄生巻よ故院のうせつてのら二三巻をいふ  
未よ世をとむきた戸はしは後醍醐も六条院よ  
もさしのおく人の心をあめんふくつるん信々  
あれが此君もさかの位よつたかたに信たつてそこ  
よつたかたにいまのまじとあつたゆりしは不ぞう幻  
巻よつて五十二ふるもたすして雲隱巻よ八巻  
のまじりしつるそのかたにのほとよつたかたに

すいんとかきしんれがましく同ドきぞうし又女三  
宮ハ高律内親王小ちすうたるり後後紀よ此  
内親王の侍事をしるやう後後太上天皇踐祚之  
初大同四年六月授親王三品即立為妃未幾而  
廢良有以也といつるを智人しこの宮ハ源氏君の  
ゆめとかりいましてわともる入道の官とちりた  
り良有以也といつるを右弟の智のみそとよし  
てかきしんれがましく此の上の後の嘉智子君よな  
すうしりそのい又徳天皇實録よ後後太

天皇初為親王納后寵遇日隆天皇登祚弘仁之始拜  
為夫人云云立為皇后云云后自明泡幻篤信佛理  
と有りて功德のいともせと勢いありてのちつひ小形  
かるくせたりしと云々又同書に后嘗多造宝幡及繡  
文袈裟衣六躬盡妙巧左右不知其意後遣沙門慧尊  
泛海入唐以繡文袈裟奉施定聖者とありは此  
上も源氏君のみくろびり日よそくまきせたり  
法法卷小はりの事をいつるやう後の世れいよとな  
と記しともをかなくせば勢いありていふてはほい

あつたまよなりてあづしもかつらんいのちれむといお  
こなりひをまぎれるくとおがしのいふとさ七倍の  
法服をどあひくたまよをすこのいつわぬひめより  
くどりてたまよらるるとかぎりあり大なるにまよ  
ひといふ知りたこぢぢもをまぎれりといふしき  
たまよもまよしたまよまよりくぢぢいふくといふぢぢ  
もあつたまよまよりくくよ女の侍たまよといふいふ  
く仏の道はくくといふたすひくく侍くくの不をと  
いといかぎりありとたまよりたすひて大くこれ侍あつ

ひろくくのいむをなんといふりせたまよい  
つをえてあづしくわくこれ源氏君を源頼天  
るくくといふをなりさて又つぢぢよまよい  
たみまよくこれ侍をいづし後紀よ平城天皇の  
源頼天皇帝侍あづしくなくせたすひく伊勢  
よよみよまよいすひるくかありて侍くこれ  
くくたまよいほくすく尚侍藤原朝臣薬子かその  
せくとの仲成といひあそせてひぢくをいしめ  
ゆまよるくくといひてせくを柏系陵へ侍使て

つげいへるもむあり物語る朱雀院のみどき  
源氏君とありさすはまはするた戸ひく須二め  
つろいのいできたらひ侍母后とあらたむのちひ  
ふすまてくれ君みやこよりた戸ひてのち幸れ侍  
くしおろした戸へるむいしむるましつてか  
いりもむこまかうきり尚侍薬子がむをちの免  
うたそ尚侍のまといみそごまよりて源氏君  
いつとえい戸へるましむるり又須磨巻を  
何すともこのれは院の侍とをどごまていふ

て北山へまてた戸といひ柏系陵へ侍使あり  
かもうげり此みまは桓武天皇のなれ桐壺の  
幸いは天皇にかまはたりといふるりねい明  
石巻よそのまはむけまそのましあより  
ものまきキキかかろま十日かきりひ  
めき雨風さわうき夜みまは侍ゆきは院み  
まどおまへのまはれまかたせいしひて侍うき  
いと何てあみきこえさせた戸をうこり  
てかまはれまはみい戸ひは又あをこ

戸ふとろけまゆりあけりいひまひてたぐりふ  
やとたきふとあふ後後紀小物恠見于内裏柏原  
山陵為崇とつゝをうつゝたつゝをいひていひて  
尸桐壘帝の侍するれがかのるをいひていひて  
たつゝはあふざやまてものぐりるる冷泉院のみどを仁  
明天皇よるすしへやたつちへ此天皇天長十年は  
侍位つゝをた尸ひて嘉祥三年まで十八年天の下  
とあふしへ冷泉院のみども下の若菜を小た  
かるくて年月かかたりてうちのこが侍位つゝを

た尸ひて十八年よるをたすひねと日ごらいつか  
たや尸せたまふ事ありてあふにわぬをた尸ひねと  
いふぞあふるる淳和天皇よたつちへいひて次る  
仁明天皇の侍事はかきるをいひよとつゝは源氏君  
を暖味天皇にさしへたつちをさるはうゝまんと  
てもゆまぎれをさふて冷泉院のみどいまとい源氏  
君の侍するをいひて仁明天皇は暖味天皇の  
侍するをいひてあふりいひていひていひて  
るりたり又後後紀は女御従四位下藤原朝臣澤子

卒故紀伊守淀五位下總繼之女也天皇納之誕生三  
皇子一皇女也寵愛之隆獨冠後宮俄病而困篤載  
之小車出自禁中總到里第便絶矣天皇聞之哀  
悼遣中使贈從三位也何ハ仁明天皇小宮つゝ  
の女侍の事るハ冷泉院は宮つゝの女侍更衣小  
つゝてこそかくべきは桐壺帝の更衣ハよかきちるハ  
るてあまりよまさしくなすゝかなんれがとせしよれ  
いつく時代をたぐくあゝりよいひぞねそのごりふ  
このかゞくをふくくちゝかのともかもしりかゝのぐり

にづゝるみぞをよめけ人ハ日本紀をこそみよるべ  
くれとみよれぬのいひゆきを思ひさるべし  
らり此物語をよむ人ハかたしといふハよる  
ておしくかたれあはれをたれもえんハらざ  
ハハはをぬハのいれとくハいる事とあり  
かのれよ侍房のみうげよて文う記するよる  
がて小そのハハをかくいせよかよ何  
たよるん

下跋文

○此書ハかひてかきかゝるハ何れぞこのかたやん

題名...  
か...  
か...

よ... たりありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...

... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...  
... ありてゆく... ありてゆく... ありてゆく...





あさりのおぼろげなぬすちのあはれ  
あさりのあはれはうらやまのあはれ  
あさりのあはれはうらやまのあはれ  
あさりのあはれはうらやまのあはれ  
あさりのあはれはうらやまのあはれ  
あさりのあはれはうらやまのあはれ  
あさりのあはれはうらやまのあはれ  
あさりのあはれはうらやまのあはれ  
あさりのあはれはうらやまのあはれ  
あさりのあはれはうらやまのあはれ

文化十年癸酉春發行

大坂

京

田儀助

葛城長兵衛

城戸市右衛門

林安五郎

